

ふるさとの歴史  
いくつ知ってる？

# 尾張旭 ふるさと カルタ 解説書

遊びながら尾張旭の  
歴史や文化を知ろう！！



# はじめに

おわりあさひ

おわりあさひしせい

きねん

尾張旭ふるさとカルタは、平成二十二年に、尾張旭市制四十年を記念して作ら

ふだ

れきし しせき だいざい

れたカルタです。それぞれの札は、尾張旭の歴史や史跡を題材にしており、カル

あそ

ぶんか まな

よ ふだ ぶんしよう

タで遊びながら尾張旭市の歴史や文化を学ぶことができます。読み札の文章や絵

ふだ え

あさひ

札の絵は、ボランティアガイド「ふるさとガイド旭」のみなさんによるものです。

かいせつしよ

ふだ しようかい

あつ

ことがら

この解説書では、それぞれの札を紹介し、その中で扱かれている事柄について、

くわ

かいせつ

ちず そ

かいせつ

詳しく解説しています。それぞれの解説ページには、地図を添えており、解説に

とうじよう

しない

登場するものが、市内のどのあたりにあるか分かるようになっていきます。また、

かんまつ

ぎやくひ

かいせつ

つか

き

ことがら

ふだ かいせつ

巻末の「逆引きカルタ解説」を使えば、気になる事柄が、どの札で解説されてい

しら

るかも調べることができます。

おわりあさひ

ぜひ、「尾張旭ふるさとカルタ」を使って、あなたの住むまちの歴史や文化を楽

まな

しく学びましょう。



# この解説書の見方

読み札

読み札や絵札に  
登場するものの写真

え

えんくうぶつ  
円空仏  
おわすは  
しょうなか かん のん どう  
庄中観音堂



読み札の  
最初の文字

地図



絵札と描かれて  
いるものの説明

解説

読み札の  
言葉の説明

この札と関連のある札  
一緒にチェック  
してみましよう！

円空は、江戸時代はじめごろに、日本のあちこちをめぐる仏像を彫った僧で、円空が彫った像のことを円空仏と呼んでいます。円空は、12万体の仏像を造ったとも言われ、現在は 5350 体ほどが見つかっています。

円空仏は、円空が活動していた当時の形式的な仏像とは異なる魅力を持ち、目元や口元の微笑みが特徴のひとつです。尾張旭市で受け継がれてきた5体の円空仏にも微笑みを見ることができます。尾張旭市の円空仏は、庄中観音堂（浜川町三丁目）で長い間、守られてきましたが、平成29年に市に寄贈されました。現在は、スカイワードあさひ3階「歴史民俗フロア」でいつでも見学することができます。

※おわす＝「いる」「ある」を  
ていねいに言う言葉。

① 関連のある札→「へ」

▶円空仏（歴史民俗フロア）



尾張旭駅にある  
水野又太郎良春  
の像



今も残る「新居」という地名の元  
となった「新居村」は、室町時代の  
1361 年に、水野又太郎良春という  
人が作ったと言われています。水野  
又太郎良春は、この地に人をつれて  
きて田畑を作り、多度神社（新居町  
西浦）や退養寺（新居町寺田）を建  
てました。退養寺の最初の和尚は、  
水野又太郎良春の弟だと伝わっ  
ています。

また、水野又太郎良春には、「無二」  
という別名もありました。これは、  
新居に伝わる棒の手の流派「無二流」  
の名前の元にもなっています。

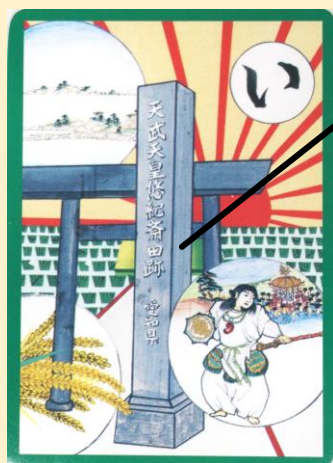
❶ 関連のある札→ 「う」「し」「ほ」  
「る」「れ」

水野又太郎良春  
新居を拓いた



みずのまたたろうよしはる ぞう  
水野又太郎良春像  
おわりあさひえきまえひろば  
(尾張旭駅前広場)





悠紀斎田跡の  
石碑



# 天武天皇の悠紀斎田 印場には

悠紀斎田とは、大嘗祭という儀式で使うお米を育てる田んぼのことを言います。大嘗祭は、新たな収穫を感謝する儀式で、天皇が即位した年に行われます。

天武天皇が即位した676年に行われた大嘗祭の悠紀斎田は、占いによって、「山田郡（この地方の古い地名）」に決められたことが分かっています。この当時、尾張旭市域は、すべて山田郡の中に含まれていました。印場地区では、この悠紀斎田があったのは、印場の地だと伝えられており、渋川神社（印場元町五丁目）には、大正時代に愛知県によって建てられた「天武天皇悠紀斎田跡」の記念碑も残っています。

❗関連のある札→「り」

天武天皇悠紀斎田碑  
（渋川神社境内）



水野又太郎  
良春の位牌

退養寺

水野又太郎良春  
と一族のものと  
伝わる墓



# 良春眠る 裏山に 退養寺

退養寺は、新居町寺田にあるお寺です。旧新居村には、退養寺と洞光院という二つのお寺があったので、東側にある退養寺は「東寺」とも呼ばれます。

退養寺を建てたのは、新居村の祖と言われる水野又太郎良春で、最初の和尚は、彼の弟だと伝わっています。退養寺には、水野又太郎良春の位牌が祀られており、寺の東側にある愛宕山には、水野又太郎良春とその一族のものと伝わるお墓（供養塔）も残っています。

①関連のある札→「あ」

みずのまたたろうよしはる いちぞく はか  
▶水野又太郎良春と一族の墓【伝】



円空仏(阿弥陀如来坐像)

円空仏(聖観世音菩薩立像)

円空仏(不動明王立像)

円空仏(護法神(多聞天))

円空仏(薬師如来坐像)



えんくう え どじだい にほん  
円空は、江戸時代はじめごろに、日本  
のあちこちをめぐり<sup>ぶつぞう</sup>仏像を彫った<sup>ほ</sup>僧で、  
えんくう<sup>ほ</sup>円空が彫った<sup>ぞう</sup>像のことを<sup>えんくうぶつ</sup>円空仏と呼ん  
でいます。円空は、<sup>えんくう</sup>12万<sup>まんたい</sup>体もの<sup>ぶつぞう</sup>仏像を  
つく造ったとも言われ、<sup>げんざい</sup>現在は 5350 体ほ  
どが<sup>み</sup>見つかっています。

えんくうぶつ かつどう とうじ  
円空仏は、円空が活動していた<sup>とうじ</sup>当時  
の形式的な<sup>けいしきてき</sup>仏像とは異なる<sup>ぶつぞう</sup>魅力<sup>こと</sup>をもち、  
<sup>めもと</sup>目元や<sup>くちもと</sup>口元の<sup>ほほえ</sup>微笑<sup>とくちよう</sup>みが特徴<sup>う</sup>のひとつ  
です。尾張旭市で<sup>おわりあさひし</sup>受け継<sup>う</sup>がれてきた5  
体の<sup>えんくうぶつ</sup>円空仏にも<sup>げんざい</sup>微笑<sup>う</sup>みを見る<sup>つ</sup>ことがで  
きます。尾張旭市の<sup>しょうなか</sup>円空仏は、<sup>しょうなか</sup>庄中  
<sup>かんのんどう</sup>観音堂<sup>しぶかわちよう</sup>(<sup>な</sup>渋川町<sup>あいだ</sup>三丁目<sup>まも</sup>)で長い<sup>なが</sup>間、<sup>あ</sup>守  
られて<sup>きぞう</sup>きましたが、平成 29 年に市に<sup>きぞう</sup>寄贈  
されました。現在は、<sup>げんざい</sup>スカイワードあ  
さひ<sup>れきしみんぞく</sup>3階「歴史民俗フロア」でいつで  
も<sup>けんがく</sup>見学<sup>けんがく</sup>することができます。

※おわす = 「いる」「ある」を  
ていねいに言う言葉。

❗関連のある札→「へ」

えんくうぶつ れきし みるぞく  
▶円空仏 (歴史民俗フロア)

えんくうぶつ  
円空仏  
しょうなか  
庄中  
かん  
観音  
のん  
堂  
どう  
おわす  
は





南原山の追分に  
建つ二体の観音  
さま



みなみはらやましゅうかいじょ みなみはらやまちょうあかつち  
南原山集会所（南原山町赤土）

の南側に、六つに道が分かれるところがあります。このうち、東西にのびる四本の道は、古くから名古屋方面と瀬戸・猿投方面をつないでいた道です。この場所に向かい合って建つ二体の観音さまは、江戸時代の1847年に建てられたもので、道しるべの役割もかねていました。東側にあり西を向いている十一面観音像には、「右さなげ道左せとしなの道」、西側にあり東を向いている馬頭観音像には「右大ぞね道左でき町□や道」と刻まれています。（□になっているところは読めないところです。「久や道」「なごや道」の二説があります。）

※ 追分＝道がいくつかに分かれるところ

① 関連のある札→「ろ」

道しるべ 追分の観音二体

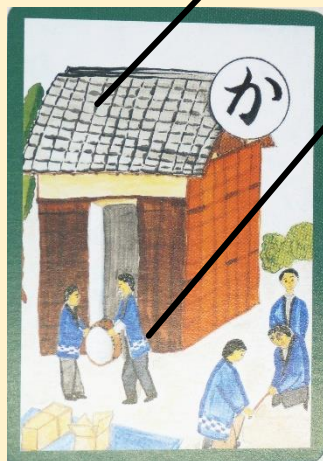


ばとうかんのん  
▲馬頭観音  
（南原山町赤土）

じゅういちめんかんのん  
▶十一面観音  
（南原山町赤土）



## 狩宿郷倉



お祭りの  
道具をしまう  
人たち



かりじゆくごうぐら かりじゆくはくさんじんじゃ  
狩宿郷倉は狩宿白山神社（狩宿  
町3丁目）の南側に建っている郷倉  
で市の文化財に指定されています。  
郷倉とは、村の人が共同で使う倉庫  
のことです。狩宿郷倉は、神社の近く  
に建っていることもあって、お祭りの  
道具の保管にも使われてきました。  
建てられたのは江戸時代末から明治  
時代初期だと考えられています。

狩宿郷倉は、尾張地方の特色をも  
つ土蔵で、村人たちで作ることがで  
きる簡単な造りです。外側には「下見  
板」が付けられており、火事の時、取  
り外すことで建物本体を燃えにくく  
することができます。平成元年（1989  
年）の失火では、一部が燃えましたが、  
大きな被害はなく、平成三年に補修  
復元することができました。

# 村の共同倉庫 狩宿の「郷倉」



## 五輪塚と石塔



区画整理前の  
「西大道町五輪塚」



# ま

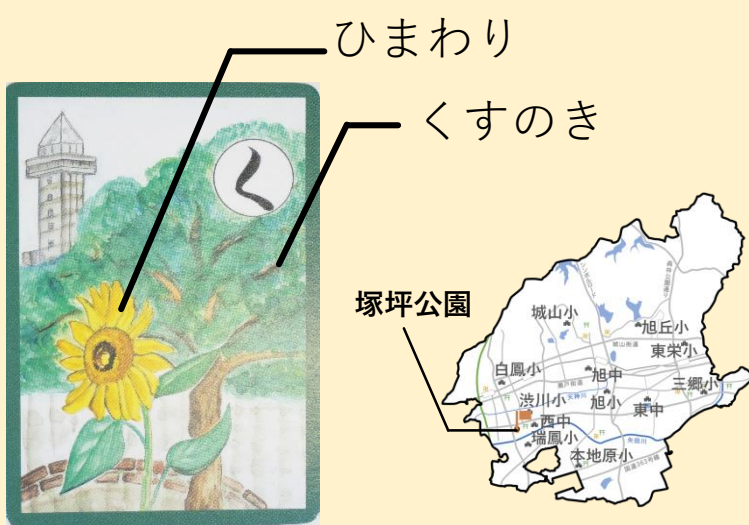
あさひちゅうがっこう なんとうすみ むかえちよう  
旭 中学校の南東隅(向 町二丁目)  
に、古い石塔が残っています。この石  
塔は、この近くにあった塚の上に建  
っていたものです。塚とは、土を盛  
り上げて作った高まりのことです。

この塚は地元の人たちに「五輪塚」  
と呼ばれており、近くの「西大道町  
五輪塚」という地名は、この塚にちな  
んでつけられたと考えられています。  
五輪塚があったあたりは、今では「向  
町二丁目」という地名になっていま  
すが、もともとは「西大道町五輪塚」  
に含まれていました。

五輪塚の上に建っていた石塔には、  
「永和四年(1378 年)」という字が刻  
まれています。これは、市内で見つか  
っている年号が刻まれた石造物の中  
で、最も古いものになります。

古きふる 年号 ねんごう  
刻まれし きざ  
五輪塚 ごりんづか





尾張旭市の「<sup>し</sup>市の<sup>き</sup>木」は、1970 年に、  
 「旭<sup>あさひちよう</sup>町」が「尾張旭市」になったこ  
 とを<sup>きねん</sup>記念して決められました。「くろま  
 つ」「かしの木」「くすのき」「まきの木」  
 「さざんか」の5つの<sup>こうほ</sup>候補の中から  
 市民の<sup>しみん</sup>応募数が<sup>おうぼすう</sup>最も<sup>もっと</sup>多かった「くすの  
 き」が<sup>えら</sup>選ばれました。

市内の古いくすのきとしては、「塚坪<sup>つかつぽ</sup>  
 公園（<sup>こうえん</sup> 渋川町<sup>しぶかわちよう</sup>三丁目）」のものが有名  
 です。このくすのきが植えられた当時、  
 この場所は、旧渋川小学校の校庭でし  
 た。この木は、1912 年の卒業生が卒業  
 記念として校庭に植えたものです。

「市の花」は、1980 年に、尾張旭市  
 になって 10 年を<sup>きねん</sup>記念して決められま  
 した。「あやめ」「カンナ」「コスモス」  
 「つつじ」「ひまわり」の5つの<sup>こうほ</sup>候補が  
 あり、その中から最も<sup>おうぼすう</sup>応募数の<sup>おほ</sup>多かつ  
 た「ひまわり」に<sup>き</sup>決まりました。

市の<sup>し</sup>木<sup>き</sup> くすの<sup>き</sup>木<sup>き</sup>  
 市の<sup>し</sup>花<sup>はな</sup> ひまわり

①関連のある札→「旭」

▶塚坪公園のくすのき  
 (旧渋川小学校校庭時代)







打ちはやし

ざい踊り



「打ちはやし」と「ざい踊り」は尾張旭市の指定文化財です。

「打ちはやし」はお祭りや盆踊りで演奏されるお囃子で、「印場北島地区」「庄中地区」「井田地区」の3つの保存会で受け継がれています。各地区の盆踊りの他、井田八幡神社の「百十灯明祭」や「秋祭り」、福田寺の「九万九千日」、直会神社の「例大祭」などで奉納されます。

「ざい踊り」は、盆踊りの中の女踊りです。竹の筒の先に紅白の紙の房をつけた「ざい」をもって踊ります。ざい踊りは印場地区の「鳳采会」と三郷地区の「みさと会」によって受け継がれています。各地区盆踊りの他、井田八幡神社の「百十灯明祭」や、渋川神社、井田八幡神社の「秋祭り」、直会神社の「例大祭」などで奉納されます。

打ちはやし ざい踊り  
稽古して 伝統まもる





森林公園芝生広場



高瀬五助の像



# 森林公園 子らの声 芝生広がる

おわりあさひし ほくぶ あいちけんしんりん  
尾張旭市の北部には、「愛知県森林  
公園」があります。最初に、このあた  
りの森林を生かして公園を作ること  
を考えたのは、高瀬五助という愛知  
県の林務課長です。彼は、この地域の  
森林を守るだけでなく、公園を作り、  
人々の憩いの場にすることを提案し  
ました。このころ、愛知県に「公園」  
と呼べるものはまだ少なく、これは、  
画期的な考えでした。そして、1934  
年には、日本初の「森林公園」として  
本格的に整備されることとなります。

今では、テニスコートや野球場、  
馬場などの運動施設や植物園、ポー  
ト池、芝生広場が作られ、豊かな自然  
を感じられる憩いの森として親しま  
れています。そして、愛知県有林  
事務所(大字新居)には、公園の実現  
に尽力した高瀬五助の像が建てら  
れています。



たかせ ごすけぞう あいちけんゆうりんじむしょ  
▶高瀬五助像 (愛知県有林事務所)

しんりんこうえん しばふひろば  
森林公園 芝生広場



良福寺の山門



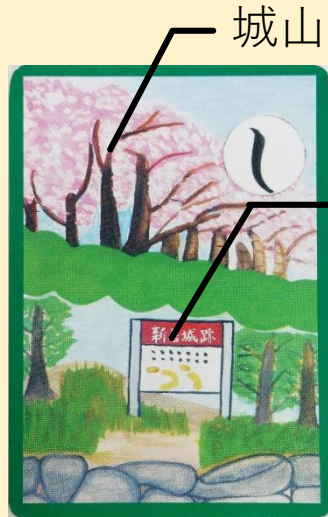
良福寺は、印場元町一丁目にあるお寺です。最初に建てられたのは平安時代と伝えられています。戦国時代から安土・桃山時代には、土岐氏や織田氏の保護を受けており、織田信長の息子である信雄の書状も残っています。信雄の書状は、尾張旭市の文化財に指定されています。良福寺は、その後、豊臣秀吉の検地などの影響で、一時、荒廃しましたが、江戸時代の1631年に、尾張藩主徳川義直の命で再興されました。良福寺の山門は、そのころ、清州城の城門のひとつを移築したものだといわれています。こちらも市の文化財に指定されています。

良福寺 山門に信長のぶ

※山門＝お寺の正門のこと。

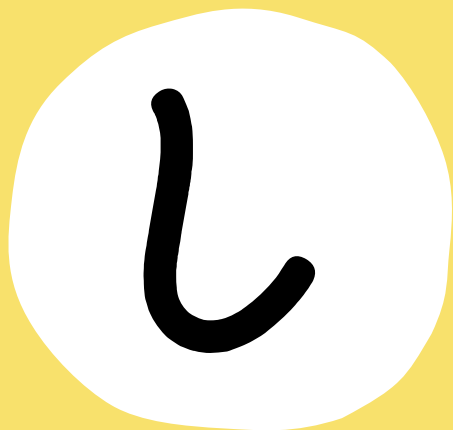
※信長＝織田信長。良福寺の山門がもともと城門のひとつだったといわれる清州城は、信長が城主だった時代があります。





城山公園の桜

新居城跡と看板



しろやまこうえん しろやまちょうながいけしも  
城山公園（城山町長池下）は1973  
年から整備された公園で、野球場や  
きゅうどうじょう 弓道場、レストハウス 旭城、児童  
公園、古民家、彫刻の森、スカイワー  
ドあさひなどがあり、桜祭りや市民祭  
の会場にもなります。

しろやまこうえん きゅうどうじょう  
城山公園のテニスコートと弓道場  
のあたりには、かつて新居城というお  
しろ 城がありました。この城は、むろまちじだい  
後期に水野又太郎良春の子孫である  
みずのうたのかみむねくに きず  
水野雅楽頭宗国によって築かれたもの  
と伝えられています。新居城は、市内  
かくにん 確認されている城の中では、いちばんおお  
きなもので、2016年に行われた調査で  
きたばり はばやく ふか やく  
は北堀が幅約8m、深さ約5mだとい  
うことが分かりました。これは、近く  
にある同じくらいの城と比べても大き  
い方にあたります。土塁（敵の侵入を  
ふせ 防ぐために土を盛り上げた壁）跡の  
いちぶ のこ きゅうどうじょう  
一部は、今も残っており、弓道場の  
ひがしがわ み  
東側で見ることができます。

# 新居城址 城山に花と緑の

※ 城址＝城跡のこと。  
① 関連のある札→「あ」



あらいじょうどるいあと しろやまこうえん  
新居城土塁跡（城山公園）

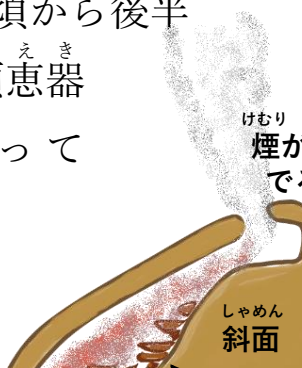


A collection of hand-drawn sketches of various objects, including a bowl, a pot, a circular object with a cross, and a large, textured, yellowish object, possibly a piece of food or a container.



市内に点在しない  
須恵器の窯跡すえきかまあと

おわりあさひし  
尾張旭市には、城山古窯群（城山  
しろやまこようぐん  
ちょうながいけしも  
しよくがほらこようぐん  
かすみがおかちょう  
町長池下）と卓ヶ洞古窯群（霞ヶ丘町）  
す え き  
かまあと  
という須恵器の窯跡があります。城山  
ねんだいなかごろ  
こうはん  
古窯群は、400年代中頃から後半  
つか  
す え き  
に使われた窯跡で、須恵器  
ちほう つた  
がこの地方に伝わって  
ひかくてきま  
比較的間もないころ  
かまあと  
の窯跡だと考え  
られています。



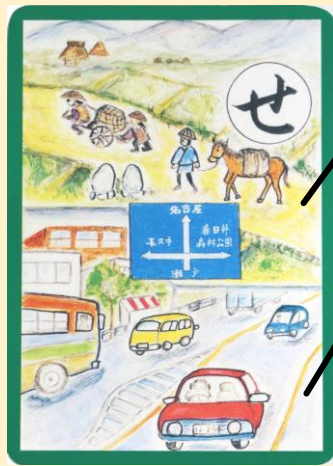
けむり  
煙が  
で  
しゃめん  
斜面



しろうまこようしゅつど  
▲城山古窯出土  
すえき  
須恵器







江戸時代の  
瀬戸街道  
の様子

現在の  
瀬戸街道  
の様子

せ

瀬戸街道と呼ばれる「<sup>せ と かいどう</sup> 県道61号線<sup>けんどう ごう</sup>」は、<sup>せん</sup> 尾張旭市<sup>おわりあさひし</sup>の<sup>ちゅうおう</sup> ほぼ中央<sup>とうざい</sup>を東西に<sup>おうだん</sup> 横断し<sup>なごや</sup>、名古屋と瀬戸<sup>せ と むす</sup>を結んでいます。  
この道は、<sup>みち</sup> 道すじ<sup>みち</sup>や<sup>みちはば</sup> 道幅<sup>か</sup>を変えながら、<sup>ふる</sup> 古くから<sup>つか</sup> 使われてきた<sup>みち</sup> 道です。いつごろから使われていたのかは、はっきりわかりませんが、江戸時代の絵図にはすでに描かれています。

現在の瀬戸街道は、整備されてまっすぐで広い道になりましたが、下の図のように、まだところどころ古い道すじも残っており、昔の街道の雰囲気を感じることができます。



変われど 瀬戸街道 東西結ぶ 道すじ

①関連のある札→「ち」「と」



しょうわ ねんだい きゅうせとかいどう  
昭和40年代の旧瀬戸街道（三郷町栄）



馬の塔の標具を  
つけた馬



馬の塔 空高く

豊年感謝

馬の塔は、尾張、西三河、東美濃に  
わたって江戸時代から行われてきた  
行事で、市の文化財にも指定されてい  
ます。豊作のお礼や、雨ごいのために、  
標具と呼ばれる飾りで馬を飾り、寺社  
に一日だけ奉納します。尾張旭市では、  
印場地区北部、印場地区南部が渋川  
神社、新居地区が多度神社、稲葉地区  
が一之御前神社、三郷地区が白山神社、  
山ノ神社、八幡神社に奉納します。

普段の村のお祭りで使う標具は、  
高札と白い御幣をつけたものですが、  
特別に豊作だった年に、複数の村が集  
まって大きな寺社に奉納する「合宿」  
では、その村ごとの特別な標具を使い  
ました。尾張旭市の各地域の標具は、  
スカイワードあさひの歴史民俗フロア  
で見ることができます。

※歴史民俗フロアの「標具」は、お祭りで使用する  
期間は、展示していません。

※ 豊年 = 作物がたくさんとれた年。

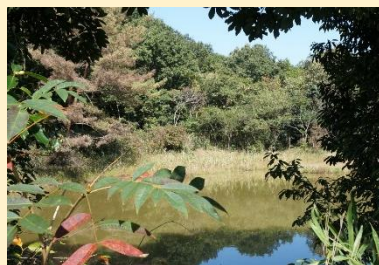


馬の塔 (多度神社)





ため池  
田んぼ



おしろたいけ  
▲御城田池（新居町寺田）

# た

おわりあさひし いなさく や だがわ ちか  
尾張旭市の稲作は、矢田川の近くか  
らはじまったと <sup>かんが</sup>考 えられています。田  
んぼや 畑 <sup>はたけ つく</sup>を作るためには、水が必要だ  
からです。その後、人が <sup>ふ</sup>増えてくると、  
川の近く以外にも田畑を増やすために、  
ため池を作りはじめました。特に、江戸  
時代は <sup>いけ つく</sup>新しい田を作ることが盛んで、  
たくさんのため池が作られました。  
おわりあさひし おお とし いじょう  
尾張旭市には、多い時は 40 以上のため  
池がありましたが、1961 年に愛知用水  
が完成してからは、<sup>かんせい</sup>だんだんと必要が  
なくなり、<sup>かず</sup>数が減っていきました。現在  
も残っている 10 数個のため池  
の中には、<sup>しゅうへん</sup>周辺を整備  
され、<sup>ひとびと</sup>人々の憩いの  
地として親しま  
れているものも  
おお 多くあります。

う  
る  
お  
し

た  
め  
池  
は

人  
豊  
か

田  
畑



いまいけ  
維摩池（新居町今池下）

今も残っているため池▶

① 関連のある札→「み」





荷物を運ぶ馬

馬頭観音

ち

名古屋道は、名古屋の出来町から瀬戸を通って信州（今の長野県）までをつないでいました。尾張旭市には、この道の昔からの道すがらが今でも残っています。

名古屋道は、江戸時代には「信州中馬街道」とも呼ばれました。中馬というのは、馬の背に荷物を乗せて運ぶ運送業のことで、馬稼ぎなどとも言われます。尾張旭市を通る「瀬戸街道」や「名古屋道」は、名古屋と信州の間で荷物を運ぶ多くの中馬に利用されました。少林寺（稲葉町二丁目）には、「風難災難除 鹿毛栗毛馬 信濃国下伊那郡コマンバ村」と台座に刻まれた馬頭観音があります。これは、旅の安全祈願や、馬の供養のために信州の人が建てたものだとおもわれます。



- 今も残る名古屋道
- .... 今はなくなった名古屋道

❗ 関連のある札 → 「せ」「ろ」

少林寺

信州つなぐ馬稼ぎ

中馬街道 名古屋道

ばとうかんのん  
馬頭観音  
しょうりんじ  
(少林寺)





瀬戸街道の「砂川」交差点の近く（城前町四丁目）に、「つんぼ石」と呼ばれる石がありました。今は、少し北に場所を移しています。尾張旭市には、この「つんぼ石」にまつわる民話が残っています。

## つんぼ石のおはなし

400 年ほど前、名古屋城の石垣に使う石を運ぶ途中、荷車から石がひとつ落ちてしまいました。先を急ぐ侍はそのまま石を置いていくことにし、村人たちには「役人が来ても、この石を置いていったことを絶対に話してはいけないぞ」と言っていました。数日後、役人がこの石について尋ねましたが、村人たちはみんな聞こえないふりをしたので、役人は、「なんとつんぼの多い村だ」と言い、あきらめて帰って行きました。それからこの石は「つんぼ石」と呼ばれています。

①関連のある札→「と」

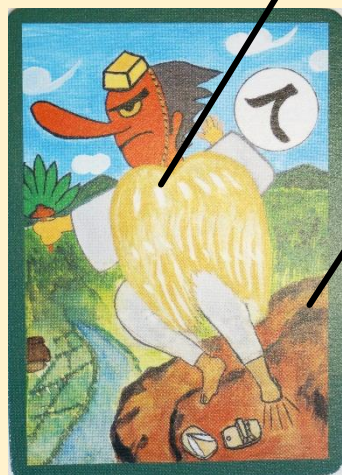
つんぼ石  
すがわこうえんみなみ  
(砂川公園南)



民話に残る つんぼ石

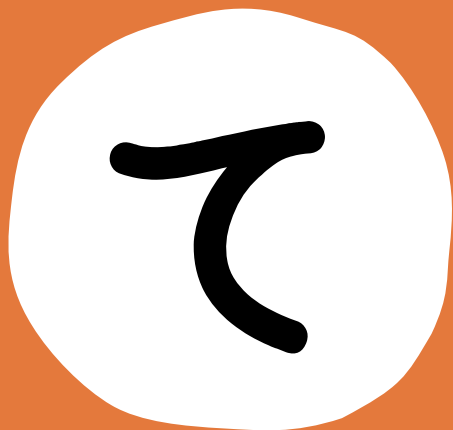
村の知恵





天狗

かかと岩



いぜん ほんじがはらいったい はくさんばやし  
以前、本地ヶ原一帯は、「白山林」  
と呼ばれる森でした。白山林には  
てんぐ まいにちやま うえ  
天狗がいて、毎日山の上から「なま  
けもの な むし  
け者や泣き虫の子はいないか」と村  
の方を見下ろしていると言われて  
いました。おわりあさひし てんぐ  
尾張旭市には、この天狗  
にまつわる民話が残っています。

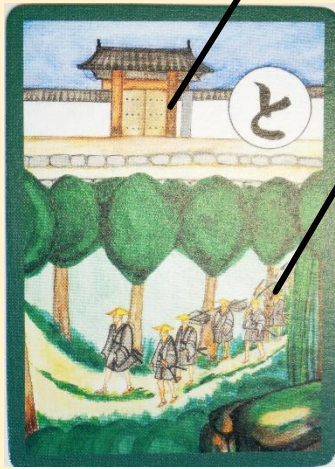
## 天狗のかかと岩

ある日、天狗が猿投山にでかける  
ために、がけの上の大きな石を踏み  
だい  
台にして、ジャンプしました。する  
と、その力で岩の真ん中がへこみ、  
かかとの跡が残りました。そこでこ  
の岩を「天狗のかかと岩」と呼ぶよ  
うになりました。この岩は、現在、  
ほんじがはらじんじゃ けいだい お  
本地ヶ原神社の境内に置かれてい  
ます。

てんぐ  
天狗さん  
さなげ  
猿投へ  
ジャンプ  
かかと岩







定光寺の源敬公廟  
(徳川義直墓)

殿様の行列

とのさまかいどう おわりあさひ  
殿様街道は、尾張旭  
し ひがしいんばちよう せ  
市東印場町 から瀬  
とし じょうこうじ  
戸市にある定光寺ま  
で続いていた古い道

です。定光寺には、尾張藩の初代藩主  
とくがわよしな お はか はんしゅ  
徳川義直のお墓があり、その後の藩主  
たちが義直のお墓参りに行くために通  
ったため、「殿様街道」と呼ばれます。

殿様街道は、今の「砂川」交差点の  
50mほど東で瀬戸街道から分かれま  
した。かつては瀬戸街道と分かれると  
ころ（分岐点）に「つんぼ石」と道標  
の石がありました（※つんぼ石については  
「つ」の札）。道標には「右セト志奈の道  
左定光寺かさわら道」と刻まれていま  
す。今、この分岐点は残ってい  
ませんが、つんぼ石と

道標は少し北の「砂川  
こうえん ばしよ  
公園」に場所を  
うつ  
移して残って  
います。



— 今も残る殿様街道  
..... 今はなくなった  
殿様街道

① 関連のある札→「せ」「つ」

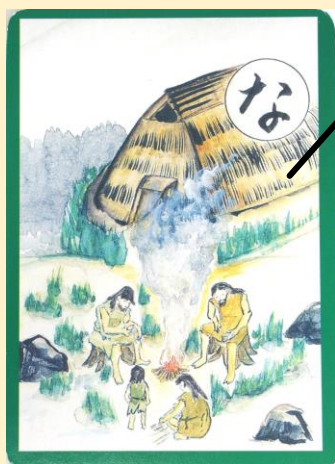


とのさまかいどう  
殿様街道  
じょうこうじ  
定光寺

ぎょうれつ  
行列が行く

せとかいどう とのさまかいどう ぶんきてん  
瀬戸街道と殿様街道の分岐点（昭和後期）  
(左：殿様街道 右：瀬戸街道)





弥生時代の家  
(竪穴住居)



ながさかいせき      ながさかちょうみなみやま  
長坂遺跡は、長坂町南山で見つ  
かった弥生時代後期の集落（家が  
あつ      あと  
集まっていたところ）跡です。

おわりあさひし      いせき  
尾張旭市で見つかった遺跡の中  
は、最も古い遺跡で、今から 1800  
ねんちか      まえ      すうけん  
年近く前の家の跡が 10数軒見つかり  
ました。そのうちの 1 軒分を  
ながさかいせきこうえん      ほぞん  
「長坂遺跡公園」に保存しています。

家の跡からは、つぼ      かめ      たかつき  
壺や、甕、高坏な  
どの土器や、せきせい      や  
石製の矢じりが見つかり  
ました。これらの一部は、スカイ  
ワードあさひ3階のれきしみんぞく  
歴史民俗フロアにてんじ  
展示されています。



ながさかいせき  
▲長坂遺跡

いと      な      しめ  
宮み示す

ながさかいせき  
長坂遺跡

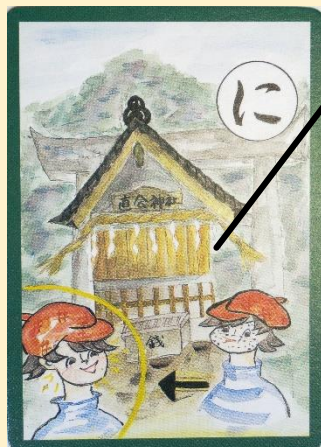
やよい      じ      だい  
弥生時代の



ながさかいせき  
▲長坂遺跡  
しゅつど      だい      つき      がめ  
出土 台付甕



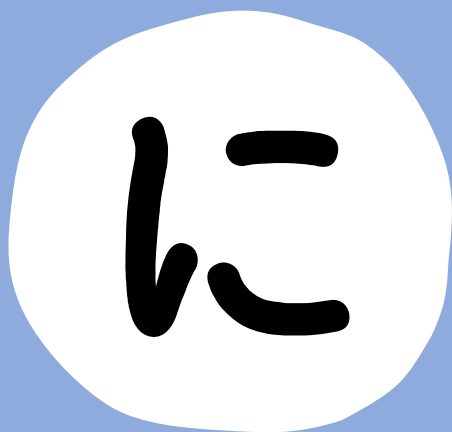
ながさかいせきしゅつど      つぼ  
▲長坂遺跡出土 壺



直会神社



直会神社



な お 直 会 さん によ う づ ら い  
 治 る 吹 出 物 ふ き で も の 詣 れ ば ま い

にしちゅうがっこう なおらいじんじゃ しぶかわちよう  
 西 中 学 校 の 西 に 直 会 神 社 ( 渋 川 町  
 三 丁 目 ) が あ り ま す 。 地 元 で は 「 に よ  
 う ら い さ ん 」 と か 「 の う ら い さ ん 」 と  
 も 呼 ば れ 親 し ま れ て い ま す 。 「 直 会 」 と  
 は 、 お 祭 り や 儀 式 の あ と に 、 お 供 え 物  
 を い た だ い て 食 べ る こ と を 言 い ま す 。  
 いんば てんむてんのう ゆ き さいでん  
 印 場 は 、 天 武 天 皇 の 悠 紀 斎 田 が あ っ た  
 ば し ょ つ た  
 場 所 だ と 伝 え ら れ て い て ( ※ 悠 紀 祭 田 に  
 つ い て は 「 い 」 の 札 ) 、 直 会 神 社 は 、 こ の 時  
 の 直 会 の 儀 式 と 関 係 が あ る と も 言 わ れ  
 ま す 。 ま た 、 直 会 神 社 は 、 い つ の 頃 か  
 ら か 、 デ キ モ ノ を 治 し て く れ る と 有 名  
 に な り 、 市 内 だ け で な く 遠 方 か ら も た  
 く さ ん の 人 が お 参 り に 来 ま し た 。  
 な ご や し も り や ま く も り た か し ん で ん み ち し る べ  
 名 古 屋 市 守 山 区 の 森 孝 新 田 に は 、 道 標  
 と さ れ て い た 観 音 様 が あ り 「 右 せ と 左  
 の う ら い 」 と 刻 ま れ て い ま す 。 ま た 、  
 な が く て し  
 長 久 手 市 に あ っ た 古 い 道 に は 「 に よ う  
 ら い 坂 」 と 呼 ば れ て い た と こ ろ が あ り  
 ま す 。 道 標 の 目 印 や 道 の 名 前 に な っ て  
 い た こ と か ら も 、 直 会 神 社 が 遠 方 ま で  
 よ く 知 ら れ て い た こ と が 分 か り ま す 。

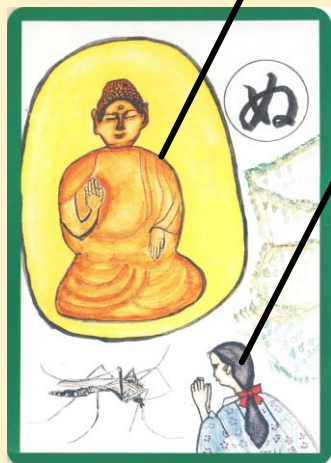
① 関連のある札 → 「い」

な お ら い じん じゃ  
 ▶ 直 会 神 社





洞光院のお釈迦さま



祈る娘さん



ぬ

あらいちようやま た おやこうこう むすめ  
新居町山の田には、親孝行な 娘  
さんの 話が伝えられています。

## 山の田の孝女

むかし  
昔、新居町山の田のあたりに  
びょうき かあ く むすめ  
病気のお母さんと暮らす娘がいま  
した。ふたり いえ まわ「かんす田」  
と呼ばれるほど蚊の多いジメジメ  
したところで、夏にはたくさんの蚊  
に悩まされていました。娘は、夜  
ねむ  
眠ることもできないお母さんの  
かんびょう まいばん  
看病を毎晩つづけましたが、減る  
ことのない蚊に困り果て、洞光院の  
しゃか  
お釈迦さまにおすがりしました。す  
ると、あれほどいた蚊がいなくなり、  
お母さんもげんき  
元気になったということ  
とです。

※かんす＝蚊のこと。

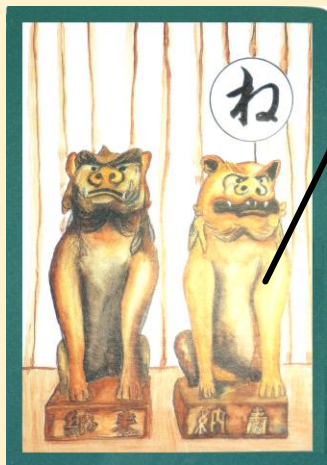
※孝女＝親孝行な娘のこと。

①関連のある札→「や」

いの ぬま  
沼の田の  
※  
祈った孝女  
※  
かんすたいさん  
蚊退散







井田八幡神社の  
陶製狛犬



こまいぬ じんじゃ けいだい お  
狛犬は、神社の境内に置かれてい  
る石でできたものがよく知られて  
いますが、瀬戸を中心とした東海  
ちほう とうせい こまいぬ かずおお  
地方では、陶製の狛犬が数多く見ら  
れます。これらは、村や家の安全を  
ねが じんじゃ ほうのう  
願って神社に奉納されたものです。

おわりあさひし い だ はちまんじんじゃ い  
尾張旭市では、井田八幡神社（井  
だちよう つい かりじゆくはくさん  
田町一丁目）の3対と、狩宿白山  
じんじゃ かりじゆくちよう つい  
神社（狩宿町三丁目）の1対の  
とうせいこまいぬ していぶんかざい  
陶製狛犬が市の指定文化財になっ  
ています。どれも江戸時代後期のも  
ので、大きさは、40cm前後です。  
ねんごう きざ いちばん  
年号が刻まれている中で一番古い  
ものは、狩宿白山神社の陶製狛犬で、  
かんえんよねん  
寛延四年（1751年）のものです。

陶製狛犬 願いこめ



かりじゆくはくさん とうせいこまいぬ  
▲狩宿白山神社の陶製狛犬

神社に奉納



いだはちまん とうせいこまいぬ  
▲井田八幡神社の陶製狛犬（3対）

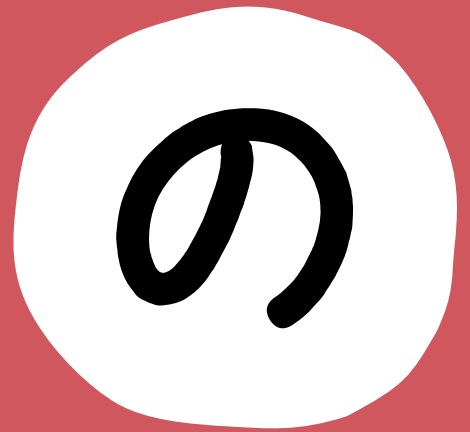
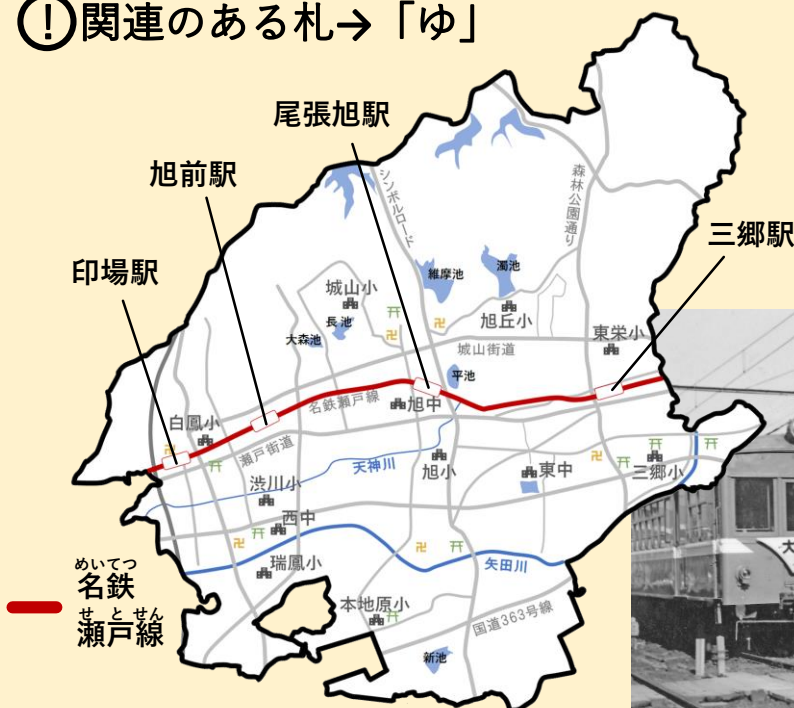
昭和はじめ頃の  
瀬戸電の駅



おわりあさひし おうだん  
尾張旭市を横断す  
る「名鉄瀬戸線」は、  
めいてつ せ と せん  
明治時代にできた  
「瀬戸自動鉄道」か  
ら始まります。設立

の四年後から昭和のはじめに名鉄と統  
合するまで、「瀬戸電気鉄道」という会  
社が運行していたため、沿線の人たち  
からは、「瀬戸電」と呼ばれ親しまれて  
きました。瀬戸電は、瀬戸や尾張旭で  
作った瀬戸物を名古屋へ運んだり、沿  
線に作った行楽地に人を運んだりして、  
この地域の発展を支えました。現在で  
も、便利な交通手段として親しまれて  
います。

①関連のある札→「ゆ」

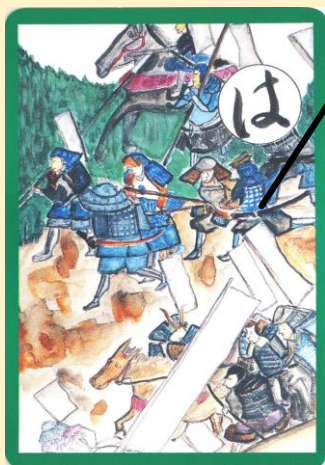


瀬戸電みんなに愛されて  
乗せて運んで百余年



しょうわこうき さんこうえき  
昭和後期の三郷駅





白山林の合戦



白山林の戦いについての  
看板がある本地ヶ原神社

は

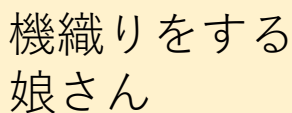
# 小牧長久手合戦の古戦場 白山林

お だ のぶなが ほんのうじ う あと  
織田信長が本能寺で討たれた後、  
こうけいしゃ たちば とくがわいえやす  
後継者の立場をめぐって徳川家康と  
とよとみでよし あらそ たたか こまき  
豊臣秀吉が争った戦いが「小牧・  
ながくて たたか な とお  
長久手の戦い」です。その名の通り、  
おも たたか ば  
主な戦いの場は、小牧と長久手です  
が、その周辺でも小さな戦いが行  
はくさんばやし よ  
われました。白山林と呼ばれた、  
おわりあさひしなんぶ たかだい きよくちせん  
尾張旭市南部の高台もそんな局地戦  
が行われた場所のひとつです。長久  
手へと向かっていた豊臣秀吉方の  
みよしひでつぐん ちようしよく  
三好秀次軍が、白山林で朝食をと  
とくがわいえやす お だ のぶかつ  
っていたところ、徳川家康・織田信雄  
れんごうぐん きゅうしゅう いえやすがわ しょうり  
連合軍が急襲し、家康側が勝利し  
はくさんばやし たたか  
たというもので「白山林の戦い」と  
よ  
呼ばれています。

げんざい ほんじがはら おもかげ  
現在、本地ヶ原に白山林の面影はほ  
のこ みなみしんちょう  
とんど残っていませんが、「南新町  
はくさん へくさんこうえん きたほん  
白山」という地名や、「白山公園（北本  
じがはらちよう はくさんどう  
地ヶ原町四丁目）」、「白山道」に白山  
なまえ のこ  
の名前が残っています。








あら い   あたごやま   ちか   かな  
新居の愛宕山の近くには、悲しい

ひとばしら   でんせつ   のこ  
人柱の伝説が残っています。

はたごいけ  
機織池  
むかし

昔、新居の愛宕山の下にあった池の  
堤防が、何度も壊れ村人たちを困らせて  
いました。ある日、占師が来て、「五  
月一日に機織り道具をもって池のほと  
りを通る女を池へ沈めるとよい」と告  
げました。その日、お告げのとおり  
に娘が通りかかったので、村人たちは、  
娘を池へ投げ込みました。それから池  
の堤防は切れなくなりましたが、五月  
一日に機織りをする人が次々と亡くな  
りました。たたりだと考えた村人たち  
は、お堂を建てて娘さんを丁寧に祀り  
ました。そして、この村では、五月一  
日に機織りをしてはいけないというよ  
うになり、池は「機織り池」と呼ばれる  
ようになりました。今、この池とお堂  
はなくなり、どこにあったのかも分か  
りません。

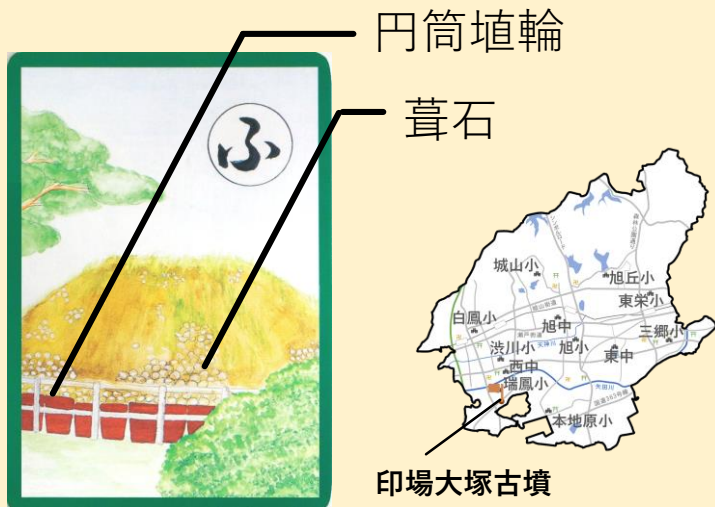
※はたご<sup>はたお</sup>=機織りの道具



かな  
悲しい伝説  
でんせつ  
※  
はたごいけ  
機織池

ひとばしら  
人柱の

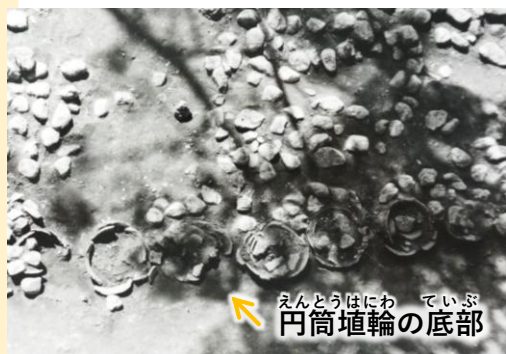




いんばおおつかこふん おおつかちょう  
 印場大塚古墳（大塚町一丁目）は、  
 ねんだいこうはん えんぶん  
 400年代後半ごろの円墳です。1973年  
 ちょうさ ふきいし えんとうはにわ  
 に調査が行われ、葺石と円筒埴輪が見  
 つかりました。葺石とは、古墳の表面  
 ひょうめん  
 に並べられるこぶし大の石のことで、  
 なら  
 円筒埴輪は、古墳の周りに並べられる  
 まわ  
 丸い筒の形をした埴輪です。  
 つつ かたち はにわ

印場大塚古墳の円筒埴輪は、底の  
 そこ  
 ぶぶん なら じょうたい  
 部分が並んだ状態のまま見つかりま  
 した。調査の時点で墳丘（古墳の高ま  
 じてん ふんきゅう こふん たか  
 り）の形はすでに崩れてしまっていま  
 かたち くず  
 したが、円筒埴輪が並んで見つかった  
 おかげで、古墳の直径が約16mだっ  
 ちようけい やく  
 たと推測することができました。  
 すいそく

現在、印場大塚古墳は、「印場大塚古  
 墳公園」に  
 ふくげん  
 復元されて  
 います。

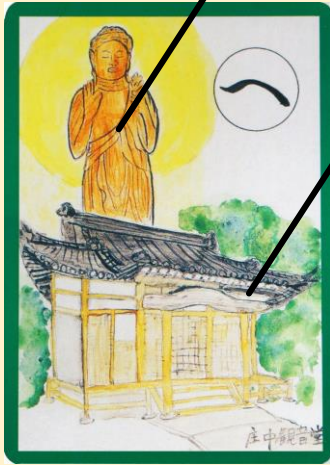


えんとうはにわ ていぶ  
 円筒埴輪の底部



大塚古墳 おおつかこふん  
 葺石と ぶきいし  
 埴輪が並ぶ はにわ なら

木造聖観世音菩薩立像



庄中観音堂



庄中  
観音堂



秘<sup>ひ</sup>仏<sup>ぶつ</sup> 庄<sup>しょう</sup>中<sup>なか</sup>観<sup>かん</sup>音<sup>のん</sup>像<sup>ぞう</sup> 平<sup>へい</sup>安<sup>あん</sup>時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>に 造<sup>つく</sup>られた

しょうなかんのどう しぶかわちょう  
庄中観音堂（渋川町三丁目）の  
ほんぞん もくぞうしょうかんぜおんぼさつ  
本尊である「木造聖観世音菩薩  
りゅうぞう していぶんかざい  
立像」は、市の指定文化財です。こ  
の像は、秘仏<sup>ひぶつ</sup>なので、普段<sup>ふだん</sup>は見るこ  
とができません。

この像<sup>ぞう</sup>が造<sup>つく</sup>られたのは、平<sup>へい</sup>安<sup>あん</sup>時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>  
こうき かんが  
後期だと考<sup>かんが</sup>えられています。この  
あたりの言<sup>い</sup>い伝<sup>つた</sup>えによ<sup>よ</sup>ると、この像<sup>ぞう</sup>  
は、昔<sup>むかし</sup>、洪水<sup>こうずい</sup>の時<sup>とき</sup>、池<sup>いけ</sup>に流<sup>なが</sup>れ着<sup>つ</sup>  
たもので、気<sup>き</sup>の毒<sup>どく</sup>に思<sup>おも</sup>った村人<sup>むらびと</sup>たち  
が、お堂<sup>どう</sup>を建<sup>た</sup>てて祀<sup>まつ</sup>ったそうです。

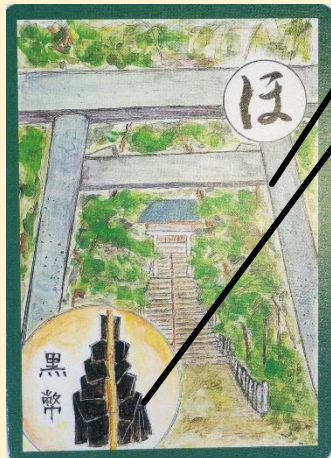
庄中観音堂には、この像<sup>ぞう</sup>の他<sup>ほか</sup>に、  
えんくうぶつ まつ  
円空<sup>えんくう</sup>仏<sup>ぶつ</sup>が5体祀<sup>まつ</sup>られていました。円  
空<sup>えんくう</sup>は、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>が造<sup>つく</sup>った像<sup>ぞう</sup>を観<sup>かん</sup>音<sup>のん</sup>堂<sup>どう</sup>に納<sup>おさ</sup>  
め<sup>め</sup>るだけ<sup>だけ</sup>でなく、本<sup>ほん</sup>尊<sup>ぞん</sup>の両<sup>りやう</sup>腕<sup>うで</sup>と足<sup>あし</sup>、  
だいざ しゅうり おこな  
台座<sup>だいざ</sup>の修<sup>しゅう</sup>理<sup>り</sup>も行<sup>おこな</sup>っています。



①関連のある札→「え」

もくぞうしょうかんぜおんぼさつりゅうぞう しょうなかんのどう  
▶木造聖観世音菩薩立像（庄中観音堂）





多度神社の鳥居  
黒幣



# 多度神社 保存林と雨乞いの宮

新居町西浦にある多度神社は、新居の祖と言われる水野又太郎良春が、多度大社（三重県桑名市）から勧請したものと伝わります。多度大社は、雨を降らせる神様として有名で、多度神社でも雨乞いの祈願が行われました。最近では、1994年の水不足の際、雨乞いの祈願を行い、多度大社から、黒幣をいただてきました。黒幣とは黒い御幣（細長い紙の束を串に挟んだもの）のことです。この地方では、普段の祈願では叶わず、どうしても雨が降らない時は、多度大社から黒幣をもらってくる風習がありました。黒幣は、持ち帰る途中で地面に下ろすとそこに雨が降ると言われているため、地面につけず持ち帰られなければなりませんでした。

また、多度神社の周りには、シイや山桜の大木、ヒノキなどが茂る豊かな森

があります。この森は、市の保存樹林に指定されています。

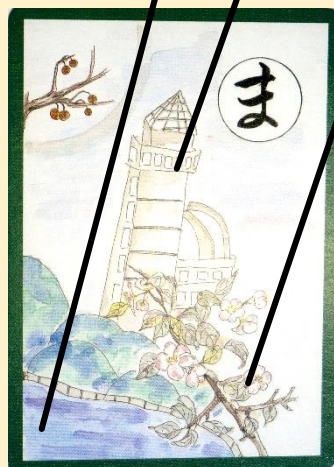
多度神社の拝殿



①関連のある札→「あ」

多度神社の鳥居

長池 スカイワードあさひ



マメナシ

長池のマメナシ  
アイナシ自生地



# ま

マメナシとアイナシは、ため池の  
ちか<sup>みず</sup>近くなどの水が湧きでる場所に育つ  
きちやう<sup>しよくぶつ</sup>貴重な植物です。城山町の長池には  
ながいけ<sup>じせいち</sup>マメナシとアイナシの自生地があり、  
市の文化財に指定されています。

マメナシは、かんきやうしやう<sup>けん</sup>環境省や県が、ぜつめつ<sup>ぜつめつ</sup>  
の恐れがある生物をまとめたレッド  
リストというリストにも載っている  
ぜつめつ<sup>きぐしゆ</sup>絶滅危惧種で、日本では、とうかいちほう<sup>とうかいちほう</sup>東海地方に  
しか自生していません。アイナシは、  
マメナシとナシのざっしゆ<sup>ざっしゆ</sup>雑種で、こちら  
めづら<sup>めづら</sup>珍しい植物です。

マメナシとアイナシはいずれも  
4月ごろに白い花を咲かせ、秋に実  
をつけます。マメナシの実<sup>ちよつけい</sup>は直径  
1cm前後、アイナシの実<sup>ぜんご</sup>は、  
直径2～3cmくら  
いの大きさです。



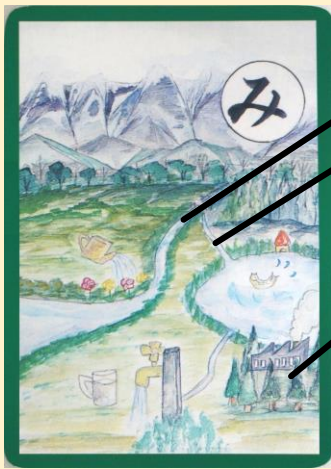
▲マメ  
ナシの花

## 自<sup>じ</sup>生<sup>せい</sup>の長<sup>なが</sup>池<sup>いけ</sup> マメナシ アイナシ



ながいけ<sup>じせいち</sup>長池のアイナシマメナシ自生地





木曽川  
愛知用水

工業用水や生活  
用水として使わ  
れている様子



おわりとうぶきゅうりょう ち た はんとう  
尾張東部丘陵から知多半島にかけ  
ての<sup>いったい</sup>一帯は、大きな川がなく、長い<sup>なが</sup>間  
水不足<sup>みずぶそく</sup>に悩<sup>なや</sup>んでいました。1947年には  
大干ばつ<sup>だいかんばつ</sup>が起<sup>お</sup>こり、これをきっかけに  
して久野庄太郎<sup>く の しょうたろう</sup>という人を中心<sup>ようすい</sup>に用水  
を引<sup>ひ</sup>くための運動<sup>うんどう</sup>が始<sup>はじ</sup>まりました。  
1955年には、事業<sup>じぎょう</sup>が開始<sup>かいし</sup>され、1961年  
には、木曽川<sup>きそがわ</sup>から知多半島<sup>ち たはんとう</sup>まで水を  
供<sup>きょうきゅう</sup>給<sup>あいちようすい</sup>する愛知用水<sup>かんせい</sup>が完成<sup>かんせい</sup>しました。

尾張旭市内では、市の東部<sup>とうぶ</sup>を北<sup>きた</sup>か  
ら南<sup>みなみ</sup>に愛知用水<sup>かんせんすいろ</sup>の幹線水路<sup>とお</sup>が通  
ています。完成<sup>かんせい</sup>した当時<sup>とうじ</sup>は、農<sup>のう</sup>業<sup>ぎよう</sup>の  
発<sup>は</sup>展<sup>てん</sup>にも大<sup>やくわり</sup>きな役割<sup>は</sup>を果た<sup>は</sup>しまし  
たが、現在<sup>げんざい</sup>は、主<sup>こうぎようよう</sup>に工業用<sup>せいかつよう</sup>  
や生活用<sup>みず</sup>の水として、  
利用<sup>りよう</sup>されています。

# 木<sup>き</sup>曽<sup>そ</sup>の水<sup>みず</sup> 水<sup>みず</sup>豊<sup>ゆた</sup>か 愛<sup>あい</sup>知<sup>ち</sup>用<sup>よう</sup>水<sup>すい</sup>



あいちようすい ちひよう  
愛知用水(地表  
に出ている部分)

あいちようすい じめん  
愛知用水(地面の下  
を通っている部分)

写真の  
地点

①関連のある札→「た」

おおく て だい かいすいろ ひがしおおくてちよう  
大久手第2開水路 (東大久手町)





村絵図

巡見使

巡見道



# 巡見道の村絵図の南北つらぬく

むらえず 村絵図とは、江戸時代に村の様子を描いた絵図のことを言います。村絵図には、お寺や神社、集落と共に道や川も描かれています。

おわりあさひし のこ 尾張旭市に残る村絵図に描かれている道のひとつに「巡見道」があります。巡見道は、江戸時代に「巡見使」という人たちが通った道です。巡見使とは、幕府から地方に派遣された人たちで、地方の村々を見て回り、農業や、政治、領主の人柄などを調べました。尾張旭市を通る巡見道は、市のほぼ中央を南北に通っています。古い道すじは

ほとんどなくなっていますが、いちのごぜんじんじゃ いなばちょう 一之御前神社（稲葉町三丁目）の南側と市役所（東大道町原田）の西側では、今でもその名残を見ることができます。



じゅんけんみち すいてい 巡見道（推定）

柴田勝家の馬印



文化会館前の  
毛受勝助の像



# め

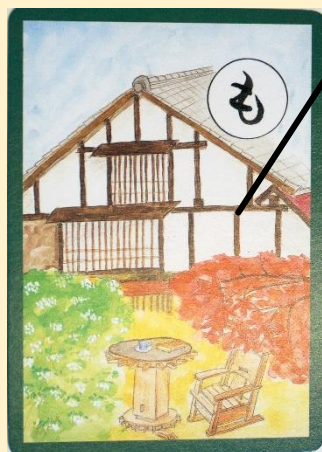
めんじょうしょうすけいえてる せんごくじだい ぶ  
毛受勝助家照は、戦国時代の武  
しょう おだのぶなが かしん しばたかついえ  
将で、織田信長の家臣、柴田勝家に  
つか いっせつ めんじょう  
仕えました。一説によると、毛受  
しょうすけ おわりあさひし いなばしゅっしん  
勝助は、尾張旭市の稲葉出身だとい  
言われます。

しばたかついえ しずがたけ たたか  
柴田勝家は、賤ヶ岳の戦いで  
とよとみひでよし やぶ めんじょうしょうすけ  
豊臣秀吉に敗れます。毛受勝助は、  
う じ かくご かついえ み が  
討ち死にを覚悟した勝家の身代わ  
りを申し出て、勝家が本拠地まで帰  
る時間をかせぎ奮戦するも、討ち死  
にしたと伝えられます。毛受勝助が  
なくなつた し が けん な が は ま し  
亡くなった滋賀県長浜市には、毛受  
あに はか つく じもと  
勝助と兄の墓が作られ、地元の人た  
ちによって今でも守られています。  
ぶん かいかん ひがしだいどう  
尾張旭市には、文化会館（東大  
ちょうやま うち まえ どうぞう  
道町山の内）の前に毛受勝助の銅像  
が建てられています。

主君の身代わり  
毛受勝助  
名を残す

めんじょうしょうすけぞう ぶん かいかんまえ  
毛受勝助像（文化会館前）▶





どうだん亭

どうだん亭



も

「<sup>てい</sup>どうだん亭」の母屋は、1942 年  
に岐阜県飛騨地方の<sup>おもや</sup>合掌造り民家  
を移築して、再構築した近代数寄屋  
建築です。数寄屋とは、茶道で使う  
建物のことです。どうだん亭の<sup>もと</sup>元  
になった合掌造りの民家は、江戸時代  
の 1723 年に建てられたと伝えられ  
ており、当時の<sup>はり</sup>梁や<sup>はしら</sup>柱をどうだん亭  
でも見ることができます。特に吹き  
抜けになっている<sup>ようま</sup>洋間では、元々の  
民家に使われていた太い<sup>ふと</sup>梁を<sup>く</sup>組み合  
わせて見せ場としており、当時の  
建材がよく<sup>わ</sup>分かります。

どうだん亭は、1997 年に尾張旭市  
に寄贈され、2008 年には国の登録有  
形文化財となりました。現在は、貸館  
として利用されていますが、春・秋・  
ひな祭りの年 3 回の一般公開では、  
内部を無料で見学できます。

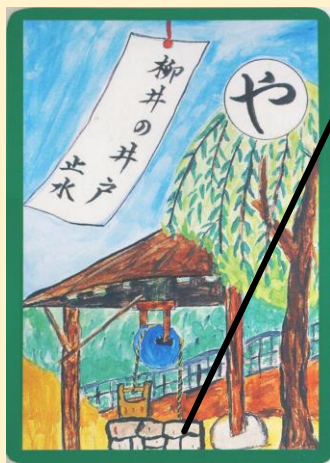
どうだん亭

紅葉に  
飛騨の  
風吹く

どうだん亭 ▶







柳井の井戸



# 止水<sup>しすい</sup>ゆかりの<sup>どうこういん</sup>洞光院<sup>いん</sup>柳井<sup>やない</sup>の井<sup>い</sup>

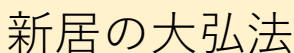
あらいちょうやま た どうこういん  
新居町山の田の洞光院は、1558  
年に新居村の村人たちによって建  
てられたと伝わります。新居村には  
退養寺と洞光院の二つのお寺があ  
るので、西側の洞光院は西寺とも呼  
ばれました。

洞光院には、江戸時代のはじめご  
ろ、「止水<sup>しすい</sup>」というお坊さん<sup>ぼうさん</sup>がとど  
まりました。止水は、和歌<sup>わか</sup>をたしな  
み「新居八景」などの和歌<sup>わか</sup>を残して  
います。また、止水は、水汲み<sup>みずく</sup>の大  
変さに悩む新居村の村人のために  
井戸<sup>いど</sup>を掘ったとも伝えられていま  
す。止水の井戸は、そばにあった柳  
の木にちなんで「柳井の井」と呼ば  
れました。この井戸は、今でも洞光  
院の境内で見ることができます。

①関連のある札→「ぬ」

どうこういん ほんどう  
洞光院 本堂 ▶





たいようじ      あらいちようてらだ      ひがしがわ  
退養寺 (新居町寺田) の東側にある

たかだい      あたごやま      よ  
高台は、愛宕山と呼ばれてきました。

ちょうじょうちか　あたごしゃ　まつ  
頂　上　近くに愛宕社が祀られているこ  
とからそう呼ばれるのだとおもわれます。

あたごやま おわりさんおこうぼう  
愛宕山には、尾張三大弘法のひとつ、

やくよけこうぼうたいし  
「厄除弘法大師」が建っています。こ

の像<sup>どう</sup>は、1930 年にコンクリート像<sup>どう</sup>で有<sup>ゆう</sup>

名な浅野祥雲という人によって造ら

れました。<sup>あらい</sup>新居の<sup>おおこうぼう</sup>大弘法は、尾張三大

弘法の<sup>だいさんばん</sup>第三番で、<sup>だいいちばん</sup>第一番は<sup>おぼたりのくち</sup>小幡緑地の

おはなこうぼう だいにばん いんば りょうふくじ  
「御花弘法」、第二番は印場の良福寺

けいだい た かい うんこうぼう しょうわ  
境内に建つ「開運弘法」です。昭和の

はじめごろは、<sup>めいてつでんしゃ</sup>名鉄電車（<sup>しよき</sup>初期は<sup>せと</sup>瀬戸

電氣鉄道) によって「尾張三大弘法め

ぐり | が<sup>じっし</sup>実施<sup>たいへん</sup>され大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>な<sup>な</sup>にぎ<sup>み</sup>わい<sup>み</sup>を<sup>み</sup>見

せうです。現在、新居の<sup>あらい</sup>大弘法は、<sup>おおこうぼう</sup>

「<sup>ほうさんかい</sup>奉替会」<sup>かたがた</sup>の方々によって<sup>まも</sup>守られ、4月

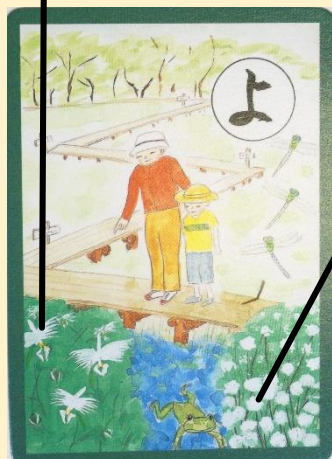
には弘法まつりも <sup>こうぼう</sup>行われています。

[illegible]

## ①関連のある札→「う」「さ」

あらい おおこうぼう おわり さんおおこうぼう やくよけこうぼうたいし  
**新居の大弘法 (尾張三大弘法 厄除弘法大師)** ▶

サギソウ



シラタマ  
ホシクサ



あさひがおかちょうにぎりいけ よしがいいけしっち  
旭ヶ丘町 濁池にある吉賀池湿地  
は、市の天然記念物に指定されてい  
ます。吉賀池湿地は地面の表面が酸  
性土壌になっています。そのため、  
普段私たちが目にする植物は育ち  
にくく、酸性土壌に適した珍しい湿  
地植物が育ちます。その中には、シ  
ラタマホシクサやサギソウ、ミズギ  
クなどの絶滅危惧種も含まれていま  
す。シラタマホシクサは東海地方の  
固有種でもあり、主に愛知県と岐阜  
県にしか自生していない植物です。

吉賀池湿地は湿地保護のため、普  
段は中に入ること  
ができませんが、春  
から秋に行われる  
一般公開の日には  
中を見学すること  
ができます。

▶サギソウ

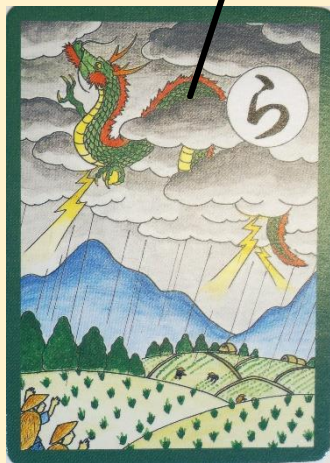


▶シラタマホシクサ

シラタマホシクサ  
吉賀池湿地に群れ咲く



## 卓ヶ洞の竜



げんざい さくらがおかちょう かすみがおかちょう  
現在の桜ヶ丘町・霞ヶ丘町のあたりは、以前、卓ヶ洞と呼ばれていました。水不足に悩まされることの多かったこの地域には、雨を降らした竜のお話しが残っています。

### 卓ヶ洞の竜

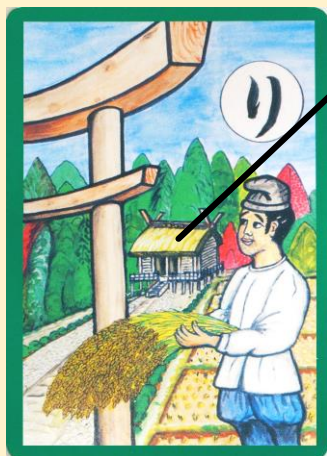
ある時、何日も続いた日照りを  
卓ヶ洞の竜のせいだと考えた  
村人たちは、竜を洞窟に閉じこめて  
しまいました。それをかわいそうに  
思った少年は、こっそりと竜のいる  
洞窟に水をさしいれてあげました。  
すると竜は、力を取り戻して洞  
窟を抜け出し、少年がくれた水のお  
返しに、雨を降らせました。その雨  
は、田畑を潤し、村は助かること  
ができたそうです。

恩返し  
おんがえし

雷雨呼び  
らいうよび

卓ヶ洞の竜  
しょくがほら  
りゅう





渋川神社



渋川遺跡

渋川神社



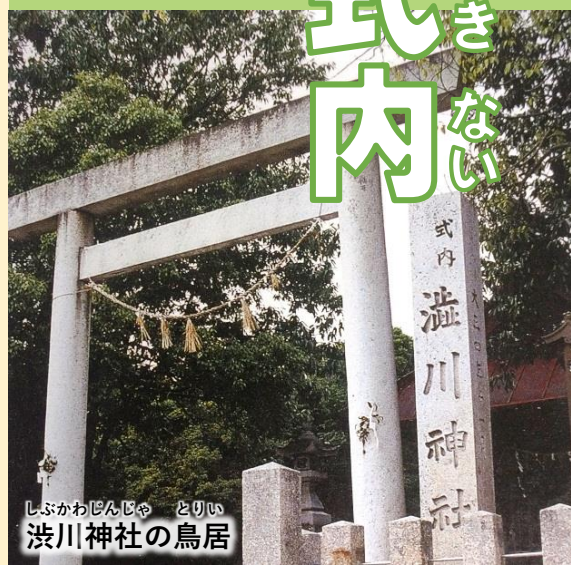
いんばもとちようごちようめ しぶかわじんじゃ  
 印場元町五丁目の渋川神社は、  
 おわりあさひし ゆいいつ しきないしゃ  
 尾張旭市で唯一の式内社です。式内  
 社とは、へいあんじだい へんしゅう  
 平安時代の905年から編集  
 された「えんぎしき ほうりつしょ  
 延喜式」という法律書の中の、  
 じんめいちよう なまえ の じんじゃ  
 「神名帳」に名前が載っている神社  
 のことを言います。

渋川神社は、676年のてんむてんのう ゆ  
 天武天皇の悠  
 きさいでん かんけい つた  
 紀斎田に関係があると伝わっており、  
 けいだい てんむてんのう ゆ きさいでんあと  
 境内には、「天武天皇悠紀斎田跡」の  
 せきひ た  
 石碑も建てられています。（※悠紀斎田  
 については「い」の札）また、渋川神社の  
 ちか しぶかわ いせき いんばもとちよう  
 近くには、「渋川遺跡（印場元町三丁  
 目）」というならじだい いせき  
 奈良時代の遺跡があり、  
 たてもの あと いっしょ すずり もじ か  
 建物の跡と一緒に、硯や文字の書か  
 れたどき  
 土器も見つかっています。渋川  
 しゅうへん  
 神社の周辺は、古くから栄えていた  
 ちいき  
 地域のひとつと言えます。

※  
 りつりよう  
 律令の  
 えんぎしき  
 延喜式内

りつりよう こだい ほうりつ えんぎしき  
 ※律令 = 古代の法律のこと。延喜式は、  
 ようろうりつりよう ほうてん こま  
 「養老律令」という法典の細かい  
 決まりなどをまとめたものです。

①関連のある札→「い」



しぶかわじんじゃ とりい  
 渋川神社の鳥居





棒の手を  
奉納する人たち



ぼう て おわりちほう にしみかわちほう  
棒の手は、尾張地方、西三河地方で  
広く行われてきた民俗芸能です。二  
人から五人が型に従って演技し、  
ごこくほうじょう ねが じんじゃ てら  
五穀豊穰を願って神社やお寺に  
ほうのう おわりあさひし  
奉納します。尾張旭市には、5つの  
りゅうは のこ  
流派が残っており、それぞれの  
ほぞんかい けいしゅう  
保存会で継承されています。

各5流派は秋祭りなどで、それぞ  
れの地区の神社に奉納します。新居  
ちく むにりゅう た ど じんじゃ いんば ちく  
地区の無二流は多度神社、印場地区  
ほくぶ とうぐんりゅう じきしんがりゅう  
北部の東軍流と直心我流、印場地区  
なんぶ じきしむそうとうぐんりゅう しぶかわじんじゃ  
南部の直師夢想東軍流は渋川神社、  
いなば ちく けんとうりゅう いちのごぜんじんじゃ  
稲葉地区の検藤流は一之御前神社  
に、それぞれ奉納されます。



受け継ぐ 旭の棒の手  
ルーツ違い 五流派



上左：無二流(多度神社)、中：東軍流(渋川神社)、右：直心我流(渋川神社)  
下左：直師夢想東軍流(渋川神社)、右：検藤流(一之御前神社)





子守勝手明神

子守勝手明神  
(多度神社境内)



あらい つく みずのまたたろうよしはる なら  
新居を作った水野又太郎良春は、奈良  
けん よしの けん よしの けん よしの  
県の吉野からやってきたと伝えられて  
います。良春は、奈良からこの地方にや  
ってきて、すぐに新居を拓いたのではなく、  
まず志段味（名古屋市守山区）に住  
みます。志段味の「勝手明神（勝手社）」  
は、良春が、奈良の「勝手神社」と「水分  
神社」を勧請して建てたものだと言わ  
れています。その後、新居を拓いた良春  
は、屋敷に小さなお社を作りました。こ  
れが、新居町西浦にあった「子守勝手  
明神」だと伝えられています。志段味の  
勝手明神と同じく「勝手神社」と「水分  
神社」を勧請したものと言われます。子  
守勝手明神は「勝手の明神さん」として  
親しまれ、子宝子育ての神として信仰さ  
れました。また、いつの頃からか「勝手  
なお願い」をきいてくださる神様として  
も知られています。

子守勝手明神の社は、2018年に多度  
神社境内（新居町西浦）に移されました。

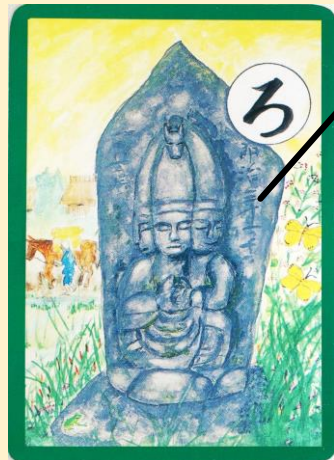
※霊験 = 御利益。神仏が祈願に応じて  
起こす不思議な力や現象のこと

①関連のある札→「う」

※  
れいげんもと  
霊験求め  
こもりかつて  
子守勝手の明神詣り  
みようじんまい



こもりかつてみようじん  
子守勝手明神 (多度神社境内)



馬頭観音

西の野町三丁目の  
馬頭観音



おわりあさひし  
尾張旭市の古い道の傍には、石で  
きた仏像があちこちに建っていました。  
このような石仏たちは、当時の人たち  
がどんな願いをもって暮らしていたの  
か知る手がかりになります。

尾張旭市の道の傍に建っていた石仏  
には「馬頭観音」が最も多く見られま  
す。馬頭観音とは、馬の顔が頭につい  
た観音様のことです。馬頭観音が建っ  
ていた道は、馬を使って荷物を運ぶ  
運送業を営む人たちが、よく通る道  
であることが多いです。このような馬  
頭観音は、馬を使って働く人たちが、  
馬の供養や旅の安全を願って道の傍に  
建てたのだと考えられています。

今では、古い道がなくなったり、整備  
されたりしていますが、道の傍にあっ  
た石仏の多くは、近くの寺の境内など  
に移動して、今でもその姿を見ることが  
できます。

※路傍＝みちばた。道の端。

①関連のある札→「お」「せ」「ち」

※  
ろばう  
路傍なる  
むかし  
昔を語る  
かた  
ふる  
古き石仏  
せきぶつ



みち はた た ばとうかんのん  
今でも道の傍に建つ馬頭観音  
(西の野町三丁目)





矢田川

田んぼ

やだがわ せとし  
矢田川は、瀬戸市  
とうぶ しんりんちたい  
東部の森林地帯を  
すいげん  
水源とし、瀬戸川と  
ごうりゅう おわりあさひし  
合流して尾張旭市

なんぶ なが いっきゅうかせん  
南部を流れる一級河川です。矢田川  
は、尾張旭市を出た後、名古屋市内で  
かなれがわ しょうないがわ い せわん  
香流川、庄内川と合流し、伊勢湾へ  
む  
と向かいます。

おわりあさひし いなさく やよいじだい  
尾張旭市の稲作は、弥生時代に、  
やだがわぞ はじ かんが  
矢田川沿いから始まったと考えら  
れています。矢田川沿いには、古くか  
ひと す あと しゅうらくあと  
ら人が住んでいた跡（集落跡）や、  
たすう こふん み  
多数の古墳も見つかっています。尾  
張旭市の歴史は、矢田川と共に発展  
してきたとも言えるのでし  
よう。現在では、かわら やだがわさん  
「矢田川散  
歩道」が整備されるなど、  
ひとびと いこ ち  
人々の憩いの地と  
しても親しま  
れています。

やだがわさんぼみち  
矢田川散歩道

①関連のある札  
→「な」



わ

矢田の流に育まれ  
我が郷土  
きょうど



やだがわ やだがわさんぼみち  
矢田川と矢田川散歩道





尾張旭市の  
イメージ  
キャラクター  
「あさぴー」

おわりあさひしいき え どじだい あらい  
尾張旭市域は、江戸時代まで新居  
むら いんばむら いなばむら いだむら せとがわ  
村・印場村・稲葉村・井田村・瀬戸川  
むら かりじゆくむら  
村・狩宿村という6つの村でした。  
めいじ  
明治11年には、狩宿村・瀬戸川村・  
井田村が合併して三郷村になり、明  
じ がつべい さんごうむら めい  
治22年には、三郷村・稲葉村と、今  
むら み の いけむら やしろむら  
村・美濃ノ池村が合併して八白村と  
なります(今・美濃ノ池は大正14年  
たいしょう  
に瀬戸市へ編入)。そして、明治39年  
せ と し へんにゆう めいじ  
には、印場村・新居村・八白村が合併  
あさひむら たんじょう しょうわ  
して旭村が誕生しました。昭和23  
あさひちょう しょうわ  
年には、旭町となり、昭和45年に  
しょうわ  
は尾張旭市となります。平成22年  
へいせい  
(2010年)には、市のイメージキャラ  
クター「あさぴー」が誕生しています。



▲旭町役場



▲尾張旭市役所(現・南庁舎)

▶「あさぴー」と「このは」



旭村から旭町未来へ  
あさひむら  
あさひちょう  
みらい  
はばたく尾張旭市  
おわりあさひし



# 逆引き カルタ解説

## あ行

愛知用水  
新居城  
新居の大弘法  
井田八幡神社  
一之御前神社  
印場大塚古墳  
打ちはやし  
馬の塔  
円空仏  
追分の石仏  
織田信雄書状  
大弘法

た,み  
し  
ゆ  
け,そ,ね  
そ,る  
ふ  
け  
そ  
え  
お  
さ  
ゆ

## か行

狩宿郷倉  
狩宿白山神社  
くすのき  
子守勝手明神  
五輪塚

か  
か,そ,ね  
く  
れ  
き

## さ行

ざい踊り  
渋川遺跡  
渋川神社  
市の木・市の花  
巡見道  
聖観世音菩薩立像  
庄中観音堂  
卓ヶ洞古窯  
卓ヶ洞の竜  
城山公園  
城山古窯  
森林公園  
須恵器  
瀬戸街道  
瀬戸電

け  
り  
い,け,そ,り,る  
く  
む  
へ  
え,へ  
す  
ら  
し  
す  
こ  
す  
せ,ち,と  
の,ゆ

## た行

退養寺  
高瀬五助  
多度神社

あ,う,ゆ  
こ  
あ,そ,ほ,る,れ

ため池  
中馬街道  
つんぼ石  
天狗のかかと岩  
洞光院  
陶製狛犬  
どうだん亭  
殿様街道

## な行

直会神社  
長坂遺跡  
名古屋道  
長池  
にようらいさん

た  
ち  
つ,と  
て  
ぬ,や  
ね  
も  
と

け,に  
な  
ち  
た,ま  
に

## は行

白山林の戦い  
機織池  
馬頭観音  
ひまわり  
福田寺  
棒の手

は  
ひ  
お,ち,ろ  
く  
け  
る

## ま行

マメナシ  
水野又太郎良春  
水野又太郎良春の墓  
名鉄瀬戸線  
毛受勝助家照

ま  
あ,う,し,ほ,れ  
う  
の,ゆ  
め

## や行

矢田川  
柳井の井  
山神社  
山の田の孝女  
悠紀斎田跡  
吉賀池湿地

わ  
や  
そ  
ぬ  
い,に,り  
よ

## ら行

良福寺  
良福寺山門  
歴史民俗フロア

さ,ゆ  
さ  
え,そ,な

# 参考文献

愛知県環境部「レッドリストあいち2020」愛知県環境部、2020年  
愛知県森林公園協議会「愛知県森林公園案内」愛知県森林公園協議会、1957年

愛知県森林公園事務所「森林公園概要 昭和45年版」愛知県森林公園事務所、1971年

20周年記念誌編集委員会「20年のあゆみ」森林公園協会、1975年

愛知県尾張県有林事務所「森林公園 創設50周年記念」愛知県、1985年

愛知県史編さん委員会「愛知県史別編民俗2 尾張」愛知県、2009年

愛知県史編さん委員会「愛知県史別編文化財3 彫刻」愛知県、2013年

愛知県史編さん委員会「愛知県史別編窯業1 古代猿投系」愛知県、2015年

尾張旭市教育委員会「印場大塚古墳」尾張旭市教育委員会、1977年

尾張旭市教育委員会「尾張旭の城館址」尾張旭市教育委員会、1985年

尾張旭市教育委員会「尾張旭の地名」尾張旭市教育委員会、1989年

尾張旭市教育委員会「尾張旭の道」尾張旭市教育委員会、1992年

尾張旭市教育委員会「渋川城館跡・渋川遺跡」尾張旭市教育委員会、1994年

尾張旭市教育委員会「長坂遺跡」尾張旭市教育委員会、1998年

尾張旭市教育委員会「尾張旭市の塚」尾張旭市教育委員会、2000年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌 本文編」尾張旭市、1971年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌 資料編」尾張旭市、1971年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌 文化財編」尾張旭市、1980年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌 現代史編」尾張旭市、2011年

尾張旭市誌編さん委員会「尾張旭市誌 現代史資料編」尾張旭市、2012年

尾張旭市都市整備課「矢田川散歩道散策マップ」尾張旭市都市整備課  
環境省「レッドリスト2019」環境省、2019年

長久手町史編さん委員会「長久手町史資料編四民俗・言語」長久手町役場、1990年

独立行政法人水資源機構愛知用水総合管理所ホームページ

ふるさとガイド旭「旭あれこれひまわり特別号」ふるさとガイド旭、2011年



# 尾張旭

# ふるさとカルタ

尾張旭の歴史や文化をカルタを使って覚えよう！



尾張旭駅北口！

グリーンシティビル1階  
「尾張旭まち案内」

尾張旭市役所  
文化スポーツ課

にて、  
販売中！

## お問い合わせ先

尾張旭市教育委員会 文化スポーツ課  
〒488-8666

尾張旭市東大道町原田2600-1  
尾張旭市役所 北庁舎2階

TEL：0561-53-1144  
FAX：0561-53-0401

## 尾張旭ふるさとカルタ解説書

編集・発行 尾張旭市教育委員会  
文化スポーツ課

発行年 令和2年

